

総合環境教育興業（仮称）りくなん環境アカデミーの創立 事業計画

南三陸町の将来像である「森 里 海 ひと いのちめぐる町」にとっての不可欠な基盤は、**環境教育**がインフラとして確立されていることである。

これまで町の自然環境活用センター”南三陸少年少女自然調査隊”やお環境省ビジターセンターの”フィールドミュージアム事業(FM事業)”などが、そのインフラづくりの初動とはなっているが、これらは公的な取り組みであるものが多く、地域住民を中心対象とした枠のものであって、確固たるものにするためにはさらなる訴求性のある取り組みが必要である。

また、今世紀において顕になった温暖化や海洋ゴミ、資源の枯渇など環境問題の解決の土台となるとりくみや、SDGs を目指す活動ともシンクロした活動となる必要がある。

そこで、このエリアの自然環境を伝え体験してもらうべく育成した人材（おきなくら EELs という任意団体を形成）やそこで培ってきたコンテンツにさらに磨きをかけ、地域の魅力を発信しつつ環境への意識の涵養を促す環境教育の機会を提供できる事業体「りくなん環境アカデミー（仮称）」をつくる。

次に述べるような事業をすすめながら関わる人を増やし、移住者や定住者人口の増加にも寄与する。

アカデミーでは、まずは以下の事業運用を考えているが、総合的に環境教育を興す事業体として、将来的により多くのコンテンツの創出とそのマーケティングに取り組んでいく。

1.実体験機会作りからの環境教育…自然学校形成事業

- ・自然体験事業体おきなくら EELs と連携して進める。
- ・地域向けに対しては、自然体験・環境学習をより身近なものとするため、地域クラブ的運営のあり方を構築する。
- ・受託として観光客や教育旅行オファーを重ねる運営形態を構築する。
- ・自然体験コンテンツは、現時点でマリン 3 種(SUP・カヤック・スノーケリング)とトレイルであるが、キャンプなど新コンテンツを模索する。
- ・体験プログラムを、体験するだけではなく、持続可能な社会づくりのための学習となるようプログラミングと指導者の育成を図る。故に自然学校形成という事業名で取り組む。
- ・地域人材はすでに EELs メンバーとなっている人も多いが、このさらなる育成により成長を望むとともに、彼ら自身がコンテンツとなった活躍の場作りに取り組む(芸能プロダクション方式)。

2.食の切り口からの環境教育…未利用水産資源活用事業

- ・環境変化による水産資源減少問題が顕在化する中、これまであまり使われてこなかった魚介類を活用し、ファストスープ(仮称:もったいなくしないスープ/No Waste Soup)として提供する仕組み(スープ開発と広報、安定販売)を構築する。
- ・この取り組みによって、海洋環境問題の 1 つである資源減少について、多くの人たちへの理解を促すとともに、その課題解決の実践とする。同時に南三陸特産品としてのプロダクトとする。

3.モノ・アートを通しての環境教育…学べるグッズマーケット開拓事業

- ・地域の自然史資源をより多くの方に知ってもらい、環境保全意識の啓発に繋げるために、学習につながるグッズを提供できる仕組み(グッズ開発と広報販売など運用)を作り、地域特産品として位置づけられるようにし、それを訴求するための東北博物グッズマーケットを企画実践する。

4.自立化事業

- ・これらを総合事業として推進し自立的に運用するため、(仮称りくなん環境アカデミー(仮称)を公益団体として法人化させる。

※三陸は陸北・陸中・陸南で構成され、活動エリアを陸南エリアと考えるための仮称。

日常的に自然とふれあい、無駄な資源の消費をせず、自然の素晴らしさ・環境を意識できるモノを身の回りに置いて暮らすライフスタイルが実践できるようなコンテンツを創っていく活動をおこなう。